

令和6年度 三木市特定教育・保育施設評価 目標達成計画

(園所名) えびす認定こども園

観点	①心の育ちを優先し、生きる力の基礎を育む教育・保育
項目	内 容
園の現状や取組、課題	<p>子どもが主体的に遊びや生活に取り組めるよう意識をし活動しているが、まだ不十分などところがある。のびのびと自分の好きな遊びに取り組む中で人との関係を広げている。その中で、激しい自己主張をし自分の考えを押し通そうとする子ども、逆に自己表現が上手くできず思いを飲み込んでしまう子どもがいる。自分の思いを相手に伝えること、また相手の思いを汲み取ろうとする、自己表現力・共感力を育てる必要がある。</p>
目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 0～2歳児は、安心安全の環境の下、保育者との愛着関係を育み、思いを十分に表出できるようにし、自分を受け入れてもらえる喜びを感じながら豊かな心の土台作りをする。 ○ 3～5歳児は、自信を持って自分の思いを表現する。また、相手の気持ちの存在に気づき、自分とは違う意見に耳を傾ける。自分の思いとの相違があることを知り、折り合いをつける経験をする。 ○ 「やりたい」の実現から「もっとやりたい」へ！
目標達成に向けた具体的な取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 発達にあった環境づくり(保育室の構成・玩具の選び方)を行い、試行錯誤を見守る。また、子どもの自己発揮の妨げにならない言葉がけや支援を行い、発達を促すようにする。 ○ 子どもの意志を確認し、尊重する。「ジブンデ」に応え、丁寧に関わる。 ○ 子どもの発見や驚きを大切に、主体的に物事に関わろうとする姿を認める。子どもの考え方が広がるよう声をかけたり、一緒になって遊んだり、アプローチの仕方はその都度工夫する。 ○ サークルタイムの充実を図り、自分の意思・心情を伝える時間を保障する。 ○ 子ども(クラス)の興味関心の方向性を把握・予測しねらいを広く持つようにする。物的環境を整え、試行錯誤ができる空間を作り、活動と学びが広がるようにする。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生活の中で子どもの活動に手助けをしすぎず、しっかりと見守ることにより、その活動に子どもが満足し、次への意欲や自信につながっていった。 ○ 0歳児クラスは、生活に慣れるのに時間がかかっていた子どもたちも、発達段階にあった手作り玩具をたくさん作り、保育者と一緒に感触遊びを楽しむ中で、子どもが遊びに主体的に関わり、試したり考えたりしながら遊ぶ姿が見られた。また、保育者とのやり取りを通し、安心を感じ、穏やかな生活を送ることができている。また、言葉の習得や微細運動の発達にも繋がった。 ○ 個々それぞれに興味や関心のある活動を中心に、友だちと意見を交わしながら進めることにより、活動への参加が消極的な子どもも、自分の意見を表現し受け入れて認めてもらえることで、その後の活動に積極的に関わることができるようになった。また、自己主張の強い子どもも、意見を主張できる場があることにより、「聞いてもらえる」という安心の中で活動に参加することができるようになった。 ○ 特に戸外遊びを中心に、サッカーや鬼ごっこ、リレー遊びなど自分たちで遊び方やルールを決め、変化させながら遊びを進めることができるようになっている。 ○ 泥だんご作りが広がり、2歳児以上で大流行した。年齢やクラスの枠を超え、作り方を伝えあったり、置き場所を決めたりなど、園全体で遊びを共有することができた。
評価	<p>子どもたちの「生きる力」を育むために、一人ひとりの子どもの主体性を大切にしている。そのため、様々な場面で最初から手助けするのではなく子どもたちの様子を見守り、子どもの意思や気持ちを尊重した関わりに心掛けている。幼児のクラスでは、発達に応じた手作り玩具を作成し子どもたちの遊ぶ意欲を引き出す工夫をしている。また、子ども同士の話し合いや意見の交流を大切にして、子どもたちが互いに認め合い、安全で安心できる園の仲間づくりを進め、一人ひとりの子どもたちの成長に寄与できるよう工夫を重ねている。</p>